

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	疾患対応型献立提案アプリケーションを用いた栄養介入効果の検討				
研究組織	代表者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希
	研究分担者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	保坂 利男
		所属・職名	食品栄養科学部・准教授	氏名	細岡 哲也
		所属・職名	(株)おいしい健康・代表取締役	氏名	野尻 哲也
		所属・職名	(株)おいしい健康・IT エンジニア	氏名	濱田 一喜
		所属・職名	(株)おいしい健康・管理栄養士	氏名	杉林 沙知子
		所属・職名	(株)おいしい健康・管理栄養士	氏名	船木 穂歌
	発表者	所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希

講演題目	疾患対応型献立提案アプリケーションを用いた栄養介入効果の検討
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>[研究の目的]</p> <p>食事指導の実施方法に関する知見は乏しく、改善の余地がある。例えば、食事指導の実施にあたっては、料理・献立レベルでの具体的な指導を行うことが必要である一方で、20-30 分の指導時間の中でそこまでの指導を行うことは難しい。また、診療所などで食事指導を受けている患者（対象者）側の食事指導満足度や理解度は不明であり、現状の食事指導の課題を明らかにする必要がある。</p> <p>そこで本研究では、①近年登場した疾患に合わせた献立提案を行うアプリケーション（以下、献立 AP）を用いて、従来の食事指導に献立 AP を併用することによる効果の変動を明らかにすることと、②食事指導の対象者における、食事指導の満足度や理解度を明らかにすることを目的として研究を行った。</p> <p>[成果及び今後の展望]</p> <p>今年度は、②について診療所通院中の 2 型糖尿病患者さんに対する栄養指導の実態調査を中心に行った。その結果、食事療法を実施している者はそうでない者と比較して[糖尿病治療に対する食事療法の必要性]を感じる者が多くいたものの、栄養食事指導を受けなくなった者の理由には[指導内容が毎回似ていたため]という回答が最多であった。本成果は、継続的に食事指導を受けている診療所患者において指導内容の画一化やマンネリ化が課題である可能性を示唆した。①については今年度、研究倫理委員会の承認を得て、参加者のリクルートを行ったが、想定よりも被験者が集まっておらず、リクルート方法を変更して再度被験者を募集している状況である。学外の協力施設でもポスター掲示の協力をしていただき、リクルートを行っている最中である。想定通りに対象者が集まっていないため、今後対象者をよりリクルートしやすい集団に変更して実施することを検討している。</p>